

長野市公共施設マネジメント NEWS LETTER

Vol.36
令和8年3月

『豊野防災交流センター』が担う地域交流の場



設置の背景と目指す役割

令和元年東日本台風災害によって被災した豊野公民館の機能移転のため、市営住宅団地の跡地に『豊野防災交流センター』の整備を行いました。

令和6年8月にオープンしたこの施設は、生涯学習活動や地域住民の交流の場として、多様な活動を通し、多世代の地域住民の交流機会を広げるとともに、避難場所や災害時の支援活動拠点として利用することができます。

地域によって支えられる施設

豊野防災交流センターの特徴は、東西にある2箇所の出入口と広い中廊下によって、施設全体が開放的に感じられることです。この施設は、公民館としての基本的な機能を持ちながら、交流センターとして地域の人々が気軽に集まり、交流する場として利用されています。

西側のメインエントランスには、朝8時30分から夜9時30分まで自由に使用できる『交流ラウンジ』があります。夕方になると地元の小・中学生が勉強したり、友達と過ごす場所として活用され、地域の交流スペースとして大切な役割を果たしています。(次ページに写真あり)

さらに、『防災学習室』では、団体の利用がない時間帯に自習室として開放されており、住民ニーズに応じた使い方がされています。

地域によるボランティア活動としては、豊野中学校の生徒による清掃活動が行われています。また、住民自治協議会が主催する『とよの縁日』では、世代を超えた交流も行われました。

開所から1年半が経ちましたが、防災拠点だけではなく、地域交流の場として定着しつつあります。



中学生によるボランティア活動1
(建物周辺清掃)



中学生によるボランティア活動2
(スリッパ拭き)



『とよの縁日』
(豊野地区住民自治協議会主催)

気軽に過ごせる居場所の提供



① 交流ラウンジ

開館時間中は、予約なしで勉強や打合せなどに利用可能

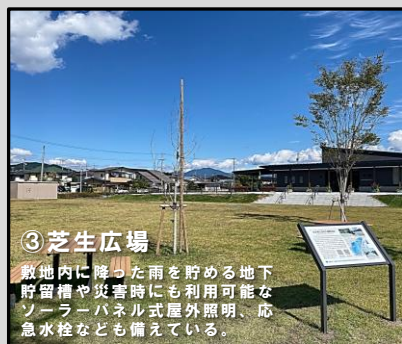


自習風景



② 図書コーナー

図書の閲覧のほか、貸出も可能
(平日8:30~17:15)



③ 芝生広場

敷地内に降った雨を貯める地下貯留槽や災害時にも利用可能なソーラーパネル式屋外照明、応急水栓なども備えている。



平面図



④ 防災学習室

台風災害の記録パネルを展示しており、一般的な会議も利用可能。利用団体がいない時間帯には自習室としても開放している。



⑤ キッチンスタジオ

キッチン開放的なアイランド型で、食器や調理器具のほか、冷蔵庫や電子レンジなどを備えている。



⑥ フロントロビー(中廊下)

東西に開かれた幅広い中廊下に2箇所の出入口があり、開放的な空間となっている。



⑦ 多目的ホール

各種イベントや大人数での会議等が開催可能。災害時に垂直避難できるハシゴも設置している。



浸水対策の止水板



防災備蓄倉庫



かまどベンチ

災害を教訓に『防災機能』を強化

豊野防災交流センターには、地域住民の安全を守るための様々な機能が備わっています。建物は浸水対策として、盛土された敷地に建築され、開口部には止水板(浸水2mまで)を設置できる機能があります。防災備蓄倉庫には、水や非常食、毛布、発電機、マンホール用トイレなど、災害時に必要な備蓄品を保管しています。

外部の芝生広場には『かまどベンチ』が2基設置されています。普段は芝生公園用のベンチとして利用されていますが、災害時には炊出しなどに活用できます。また、防災学習室には、台風災害の記録パネルが展示されており、過去の災害の教訓を地域住民に伝える役割を果たしています。

この施設は避難所としても指定されており、防災機能と交流センター機能を融合させた、地域住民が安心して利用できる環境が整えられています。

真田宝物館及び文化施設への民間活力導入の検討

本市では松代地区にある、老朽化した真田宝物館の観光資源としての魅力向上や来訪者増加の検討、また国登録をはじめとする10を超える文化財建物の保存を前提とした新たな管理・運営の検討を進めるに当たり、民間事業者との連携などの民間活力の導入・可能性を把握する調査を進めています。

「松代における民間活力導入のイメージ」



今回は、この調査で実施した民間事業者との連携による取組の実現可能性や課題、また必要条件等の把握を目的とする民間事業者との直接対話の中で、参加した事業者からいただいた主な意見を紹介します。
(裏面に続く)

「調査にあたり民間事業者へ示した松代エリアの概要(抜粋)」

一観光地としての「松代」一

- 善光寺、戸隠高原に次いで3番目*に観光客(年間約40~50万人)が訪れている。
* 令和6年観光地利用者統計調査結果(長野県)より
- 松代藩真田家伝来の大名道具を中心とした歴史資料5万点以上を収蔵・公開する「真田宝物館」のほか、源泉かけ流しの「松代温泉」や温泉水を利用した釉薬による「松代焼」、第二次大戦末期に政府・大本営等の移設が計画された「象山地下壕」などの観光資源がある。

一今回調査対象の真田宝物館及び文化施設が集まるエリアの特徴一

- 江戸時代に松代藩の城下町として栄え、松代城をはじめ武家屋敷や商家、庭園群など数多くの歴史文化遺産が残っている。
- 幕末の先覚者・佐久間象山を祀る神社や生誕地、先進的な藩校などがあり、趣きある往時の歴史文化が体験できる。



対話の概要と参加者の主な意見について

対話の実施期間：令和7年12月1日（月）～12月4日（木）

参加者：12社（建設関係1、展示関係2、設計関係1、施設管理運営関係2、不動産関係2、宿泊関係4）

調査方法：1社毎に対面又はWEB会議で対話

主な対話項目と対話参加者からの主な意見

〔項目1〕対話の対象施設が集まるエリア（松代）の立地性に関すること

💡 立地や歴史資源の集積は、歴史体験・文化観光に適している。

💡 真田宝物館を中心とした松代エリア全体の方向性を示す市の構想が必要ではないか。

〔項目2〕真田宝物館のリニューアルに関すること

💡 真田宝物館のリニューアルを起点とした体験型観光・回遊の創出や周辺地域との広域連携によって、観光誘客が高まる可能性がある。



現在行われている体験例
（甲冑着付け）

〔項目3〕市が所有する文化施設の利活用に関すること

💡 地域資源と組み合わせた高付加価値の文化体験や宿泊等の可能性がある。

💡 民間事業者が独自で行える利活用の範囲と公益性の高い範囲を分離し、複数の文化施設を対象に、長期契約（10年間以上）とすることで、実現の可能性が高まる。



民間事業者による一層の
利活用を期待する寺町商家

市のホームページで公開する
対話結果の概要はこちらから
ご覧いただけます。



今後は、今回の調査で把握できた民間事業者との連携の可能性などから、真田宝物館及び文化施設への民間活力の導入の検討を進めていきます。



長野市 総務部 公民連携推進局 〒380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613番地
(Tel) 026-224-7592 / 026-224-9718 (E-mail) koukyou@city.nagano.lg.jp

過去のニュースレターはHPへ [【長野市ホームページ>市政情報>施策・計画>公共施設マネジメント】](#)

FEEL NAGANO,
BE NATURAL